

## 温室効果ガス排出量の内訳

Scope	割合	排出量 (千t-CO <sub>2</sub> )	算定方法
Scope1 (燃料使用に伴う直接排出)	2.1%	123	燃料使用量に原単位を乗算 温室効果ガス直接排出量に排出係数をかけて算定
Scope2 (外部から購入する電力や熱の使用に伴う間接排出)	15.6%	898	電力・蒸気使用量にロケーションベース原単位をかけて算定
Scope3 (Scope1、2以外の間接排出(原料調達、輸送、使用、廃棄の 他、従業員の通勤、出張など))	82.3%	4,738	—
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	63.3%	3,646	購入・取得した製品・サービスの金額データと、産業連関 表の原単位をかけて算定
カテゴリ2「資本財」	3.7%	212	資本財の調達金額と産業連関表で提示された原単位をか けて算定
カテゴリ3「Scope1、2に含まれない燃料及び エネルギー活動」	2.8%	161	使用した燃料・エネルギーの使用量にカーボンフットプリン トコミュニケーションプログラムの原単位をかけて算定
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	0.8%	46	ロジスティック分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法共同ガイド ライン(経済産業省・国土交通省)に従って算出(2016年度値)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	0.3%	17	廃棄物種類別の処理方法による原単位および、廃棄物輸 送に伴う排出量から算出(2016年度値)
カテゴリ6「出張」	0.2%	10	産業連関表で提示された原単位と人数をかけて算定
カテゴリ7「雇用者の通勤」	0.5%	28	産業連関表で提示された都市区分原単位と人数をかけて 算定
カテゴリ8「リース資産(上流)」	0.002%	0	主に営業用で使用するリース車両における燃料使用量から 算出
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	0.001%	0	シナリオ設定を用いた輸送トンキロ法を用いて算出
カテゴリ10「販売した製品の加工」	—	—	—
カテゴリ11「販売した製品の使用」	10.6%	609	コンシューマー製品の消費電力、製品寿命、販売個数より 算定
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	0.2%	9	製品ごとの廃棄物種類別の処理方法による原単位および、 廃棄物輸送に伴う排出量から算出
カテゴリ13「リース資産(下流)」	—	—	関連会社に賃貸しているテナントからのGHG排出量は、 Scope1、2で計上
カテゴリ14「フランチャイズ」	—	—	—
カテゴリ15「投資」	—	—	—
<b>合計</b>	<b>100%</b>	<b>5,759</b>	<b>—</b>

※原単位:活動量あたりの温室効果ガス排出量

京セラグループでは生産工程で温室効果ガスを使用しており、エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量は以下の通りです。

単位(t-CO<sub>2</sub>)

	2018年度
CO <sub>2</sub>	8
CH <sub>4</sub>	169
N <sub>2</sub> O	68
HFC類	22
PFC類	598
SF <sub>6</sub>	1,831
NF <sub>3</sub>	194
<b>合計</b>	<b>2,891</b>